

令和6年度第1回障害者雇用促進プロジェクトチーム（発言要旨）

日時：令和6年6月24日（月）

13:30～15:00

開催：対面

参加者：委員13名、関係者1名

1 開会

2 あいさつ

（1）労働政策課長

- ・群馬県の障害者実雇用率は2.28%と過去最高となったが、全国順位はまだまだの状況である。
- ・群馬県産業振興基本計画において、法定雇用率達成を目標に掲げ取り組んでいる。
- ・本日は委員の皆様からご意見をいただき、今後の施策に取り組んでいきたい。

3 自己紹介

委員・関係者・事務局が自己紹介

4 議事

（1）障害者就労支援事業について

①ピアサポーターの活用

（委員）

- ・県はこの案件については経済的な支援をするものなのか。

（障害政策課）

- ・経済的な支援ではなく、退院後の困りごとを一緒に解決するなど、生活をサポートするものである。

（委員）

- ・障害のある当事者でないと分からないこともあるため、当事者同士で本音を言い合えることが大切。

②国の事業との関係

（委員）

- ・労働局では、他の支援機関と重複する部分もあるが、国では個別支援を主に行っている。
重複する部分もあるかもしれないが、支援の方法は異なる。

（委員）

- ・様々な支援があり、わかりづらいと思うので、フローチャートのように、場合分けで必要な支援や相談機関が視覚的にわかるものがあると良い。

（2）障害者雇用ネットワークについて

（オブザーバー）

- ・現状、他の企業を訪問するなどし、取組やノウハウの共有をしている。

（委員）

- ・ネットワークには、多くの企業が入ってもらった方が良いと思う。

（委員）

- ・訪問した企業やセミナーへ参加した企業を登録し、情報交換や情報伝達をするのも良い。
- ・一過性のものでなく、ネットやメール等で常に繋がっておくのが、本来のネットワークかと思う。

（委員）

- ・困った時に企業間で相談できるものが理想である。
- ・顔の見える関係で互に行き来できるような地域密着している
障害者就業・生活支援センター（以下、ナカボツ）を支援するのが良い。

(3) 障害者雇用促進プロジェクトチームを含めた障害者雇用の周知について

(委員)

- ・本プロジェクトでは、現場のニーズを踏まえて、方向性を示すのが本来のあり方と考える。

(委員)

- ・プロジェクトチームのあり方も見直す必要がある。

(オブザーバー)

- ・他の企業を見ることは、非常に参考になる。ネットワークもそのように活かせば良い。

(4) その他

(委員)

- ・ナカボツは全体的に見ると人員が不足している。確約はできないが増員対応も可能である。

(委員)

- ・精神障害者がすき間時間で短時間勤務している例がある。

(農業構造政策課)

- ・今年度、農業の憲法（食料・農業・農村基本法）が改正され、新たに「農福連携」に関する条文が追加されたため、来年度に向けて施策を検討している。
- ・現状、特別支援学校の生徒が農家で実習を行い、農業を就職先の一つとして選ぶ支援をしている。
- ・障害者雇用については、特に家族経営の農家では受け入れのハードルが高い状況である。
- ・企業の農業参入が進んでいる状況もあり、共同受注窓口と連携し、農福連携を促進したいと考えているが、ニーズの把握が難しい。除草作業や出荷調整などニーズは存在すると考えているが、どのようにマッチングするか模索している。

(委員)

- ・農業構造政策課と一緒に取組を進めており、時給も高くなってきた。

(委員)

- ・プロジェクトチームは一般的に短期集中型である。本プロジェクトチームも関連する部分はあるが、専門分野が異なる。

(委員)

- ・労働局でも障害者雇用は重点課題として掲げている。
- ・全国順位ではなく、法定雇用率を達成すればいいと考えている。
- ・群馬県では、障害者雇用をまったくしていない企業（以下、ゼロ雇用企業）が9割近くを占めている。納付金を納める必要もないこともあり、障害者雇用の位置づけがよくわかっていない100人以下の企業が多い。
- ・メリットがあるから、障害者を雇用するのではなく、法律で決まっていることである。そういったことの理解促進、周知をしていきたい。
- ・今年度、ハローワークで開催する就職面接会は未達成企業とゼロ雇用企業を対象にしようと考えている。

(委員)

- ・ゼロ雇用企業への対策を重点的にするのが良いのではないか。

(委員)

- ・障害者ができる仕事がない、切り出せる仕事がないという話も聞く。また、業種によっては機械化や高度化が進んでいて、障害者を雇用する余地がない企業もある。
- ・ゼロ雇用企業からは、親会社から障害者雇用をするように話があり、検討を始めたという話も聞いた。なぜ、ゼロ雇用なのか追求し、同業種でノウハウを共有できると良い。

5 閉会